

EPSON
EXCEED YOUR VISION

2015年度（2016年3月期） 第2四半期 決算説明会

2015年10月29日

セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2015. All rights reserved.



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 2015年度の開示セグメントについて

2015年4月に、SE15後期 新中期経営計画の総仕上げと、2015年度の事業計画達成、および2016年度以降を見据えた最適フォーメーションを構築するため組織変更を実施しました。これに伴い、2015年度から開示セグメントを、マネジメント・アプローチに基づき変更いたしました。なお、2014年度の実績も、2015年度との比較説明に表示する場合は、新しい開示セグメントに合わせて記載しています。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

1. 概要

2. 詳細

決算ハイライト（第2四半期連結累計期間）



(億円)	2014年度		2015年度				前年 同期比	7/30 予想比	
	実績	%	7/30予想	%	実績	%			
売上収益	5,128	-	5,400	-	5,429	-	+301 +5.9%	-	+29 +0.6%
事業利益	509	9.9%	440	8.1%	402	7.4%	-106 -20.9%	-	-37 -8.5%
営業利益	785 ※1 (485)	15.3% (9.5%)	440	8.1%	417	7.7%	-368 -46.9%	(-68) (-14%)	-22 -5.2%
税引前利益	806 (505)	15.7% (9.9%)	440	8.1%	401	7.4%	-405 -50.3%	(-104) (-20.7%)	-38 -8.8%
四半期利益	656 (356)	12.8% (6.9%)	280	5.2%	261	4.8%	-395 -60.2%	(-94) (-26.5%)	-18 -6.5%
EPS ※2	183.32 円		78.26 円		72.75 円		※1 2014年度1Qの営業利益に、一時的な利益となる年金制度改定益約300億円を計上。 ()内は、各利益から年金制度改定益を除いた参考値。		
換算 レート	USD	103.04 円	118.00 円		121.80 円				
	EUR	138.91 円	130.00 円		135.07 円				

※2 2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施。EPSは、株式分割後の発行済み株式数（自己株式除く）により算出

3

■ 2015年度 中間決算の概要

- 売上収益は、前年同期比で、301億円増収の 5,429億円、事業利益は、106億円減益の 402億円、四半期利益は、395億円減益の 261億円。
- また、7月30日に発表した前回予想に対しては、売上収益は予想並みを確保したが、各段階利益においては未達。

決算ハイライト (第2四半期決算)




(億円)	2014年度		2015年度		増減額	増減率	7/30 予想(参考)	
	2Q実績	%	2Q実績	%			上期予想から 1Q実績を控除	%
売上収益	2,665	-	2,820	-	+155	+5.8%	2,790	-
事業利益	273	10.3%	237	8.4%	-36	-13.4%	274	+9.8%
営業利益	239	9.0%	254	9.0%	+14	+6.1%	277	+9.9%
税引前 四半期利益	258	9.7%	240	8.5%	-18	-7.0%	279	+10.0%
四半期利益	190	7.2%	156	5.5%	-34	-18.2%	174	+6.2%
EPS ※1	53.09 円		43.32 円					
換算 レート	USD	103.92 円	122.23 円				115.00 円	
	EUR	137.76 円	135.98 円				125.00 円	

※1 2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施。EPSは、株式分割後の発行済み株式数（自己株式除く）により算出

■ 2015年度 第2四半期の実績

- 前年同期比で、
売上収益は、155億円増収の 2,820億円、
事業利益は、36億円減益の 237億円、
四半期利益は、34億円減益の 156億円。

第2四半期ポイント（事業利益 対前回予想値）		EPSON EXCEED YOUR VISION
	事業の取り組み	事業環境の変化
全社		- 中南米通貨の急激な下落
プリンティング ソリューションズ 前回予想比(※考) △49億円	+ IJPは、大容量インクタンク モデル・オフィス向け高価 格帯モデルの販売、インク の売上は順調 - インクカートリッジモデル生 産タイミング調整	- US \$ 高による海外生産品の 製造コスト増加 - 北米インクカートリッジモデル本 体の価格低下
ビジュアル コミュニケーション △41億円	+ プロジェクターの2Q販売 数量は過去最高を記録	- プロジェクター市場低調 - 欧米教育需要減 - 高付加価値品販売減・モデル ミックス悪化
ウェアラブル・ 産業プロダクツ +29億円	+ 水晶の構造改革など固定 費削減効果	- 半導体 市況の影響などにより 売上減
 事業を取り巻く環境が急激に変化		
		※ IJP : Ink Jet Printers

■ 2015年度 第2四半期事業利益の前回予想との比較

- 当四半期は、中南米通貨が急激に下落したため、商品値上げなどの対応が追い付かず、プリンターやプロジェクターなどの完成品事業において、大きなマイナス影響を受けた。
- 事業の取り組みの進捗については、インクジェットプリンターでは、大容量インクタンクモデルやオフィス向け高価格帯モデルの販売、およびインクの売上は、順調に推移。
一方、第2四半期で進めたインクカートリッジモデルの生産タイミング調整は、計画の一部が第3四半期へずれ込んだ。
- プロジェクターは、この第2四半期に、過去最高の販売数量を達成。
- 水晶では、構造改革により固定費削減効果があった。
- 一方、事業環境については、インクジェットプリンターで、ドル高による海外生産品の製造コストが増加するとともに、北米において、家庭用および中価格帯以下のオフィス向けが、競合他社の価格プロモーション強化の影響を受け、価格が低下。
- プロジェクターは、ワールドカップ等の特需のあった前年に比べ、市場成長がマイナスになるとともに、欧米を中心に教育向けの入札案件が減少し、高付加価値商品の販売減などにより、モデルミックスが悪化。
- 半導体では、市況の影響を受けた。
- 以上のように、第2四半期は、戦略は着実に前進し、成果が生み出されているものの、世界経済の減速や、競合他社の価格プロモーションの強化など、下期における事業を取り巻く環境の変化を強く認識した結果となった。

2015年度業績予想



(億円)	2014年度		2015年度				前期 実績比	7/30 予想比
	実績	%	7/30予想	%	今回予想	%		
売上収益	10,863	-	11,300	-	11,000	-	+136 +1.3%	-300 -2.7%
事業利益	1,012	9.3%	1,020	9.0%	820	7.5%	-192 -19.0%	-200 -19.6%
営業利益	1,313 ※1(1,013)	12.1% (9.3%)	1,000	8.8%	910	8.3%	-403 -30.7%	(-103) -9.0%
税引前利益	1,325 (1,024)	12.2% (9.4%)	1,000	8.8%	880	8.0%	-445 -33.6%	(-144) -12.0%
当期利益	1,127 (827)	10.4% (7.6%)	700	6.2%	600	5.5%	-527 -46.8%	(-227) -14.3%
EPS ※2	314.61 円		195.65 円		167.70 円			
換算 レート	USD	109.93 円	117.00 円		118.00 円			
	EUR	138.77 円	127.00 円		130.00 円			

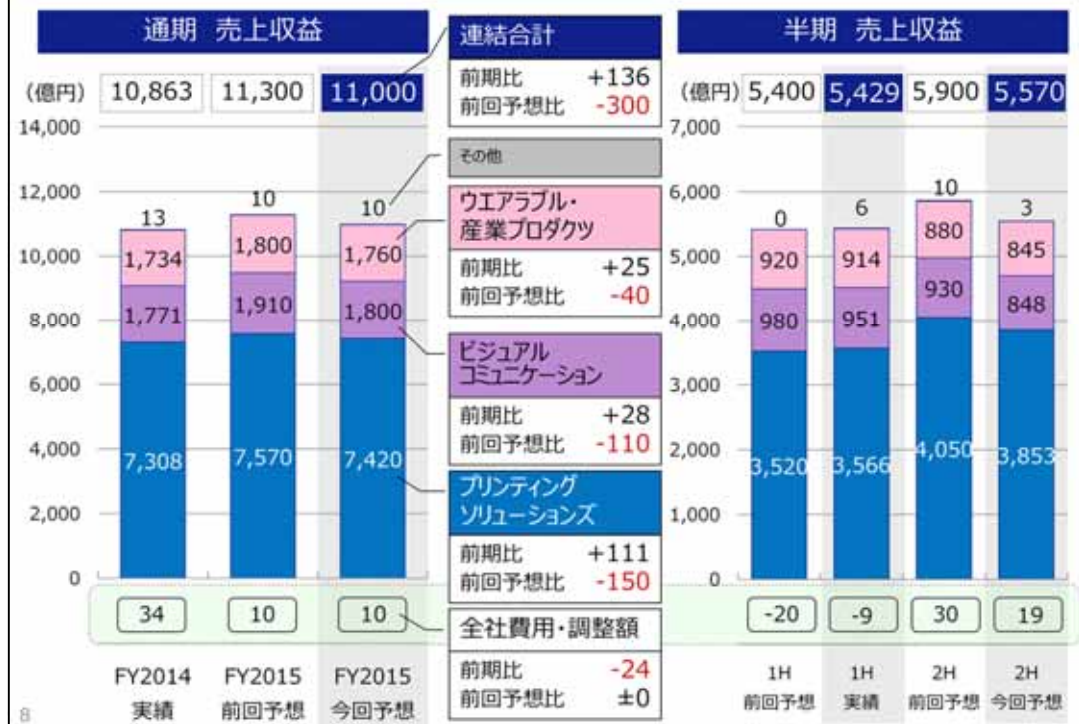
●今回予想 3Q以降の為替レート前提
USD : 115.00円 / EUR : 125.00円
●為替感応度 (事業利益)
USD : △4億円 / EUR : +8億円

※1 2014年度営業利益には、年金制度改定益約300億円、固定資産売却益など、一時的な利益を計上。
() 内は、各利益から5年長期改定益を除いた参考値。
※2 2015/4/1を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施。EPSは、株式分割後の発行済み株式数（自己株式除く）により算出

■ 2015年度の通期業績予想

- 第2四半期までの実績、並びに今後の市場環境などを改めて検証を行い、前回予想から修正。
その結果、
売上収益は、1兆1,000億円、
事業利益は 820億円、
営業利益は 910億円、
当期利益は 600億円 を予想。
- なお、営業利益段階において、湘南事業所の固定資産売却益が計上されている。
- 第3四半期以降の前提となる為替レートは、前回予想前提と同じUSD115円、EUR125円。
- また、年間配当については、従来予想を据え置き、1株当たり年間60円。

2015年度業績予想（売上収益） ▶ 事業セグメント別



■ 2015年度の事業セグメント別売上収益予想、上期・下期別の内訳

- ▶ 前回予想に対し、通期の売上収益は
 プリンティングソリューションズが、150億円、
 ビジュアルコミュニケーションが、110億円、
 ウェアラブル・産業プロダクツが、40億円
 それぞれ下方修正。

● 下期のポイント（対前回予想）

- ✓ SE15後期 新中期経営計画で定めた戦略は順調に進捗
- ✓ 下期は環境変化を前提に、予測し得るリスクを最大限考慮

戦略の進捗	<ul style="list-style-type: none"> • IJP戦略は順調に進展 • 次期中計における成長に向けた取り組みを着実に展開 ⇒ 新商品開発投資・生産増強投資・ブランド強化投資
事業を取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> • 中国の景気減速、中南米の通貨下落および景気回復の遅れなど、世界経済の見通しが不透明 ⇒ 市場低迷、政府系案件の減少 • 競合各社 価格プロモーション強化

10

■ 2015年度 業績予想の前提となる下期見通しの考え方

- エプソンの戦略は、インクジェットプリンターの戦略を中心に、上期から継続して、成果が着実に業績に反映されていると考えている。
- また、次期中期経営計画における成長に向けた、プリンターやプロジェクターの新商品開発投資、生産能力増強のための設備投資、販売加速を支援するブランド強化投資などの取り組みを、着実に展開していく。
- その一方で、第2四半期の状況を踏まえると、下期は、中国の景気減速や、中南米の通貨下落および景気回復の遅れなど、世界経済の不透明感がますます強まる中で、市場の低迷や政府系入札案件の減少に加え、競合他社による価格プロモーション強化などの変化が予見される。
- 従って、今回の業績予想の中では、前提となる環境変化について慎重に見極めを行い、現段階で予測し得るリスクを最大限考慮した。

● 下期のポイント（事業利益 対前回予想）

	事業環境の変化	事業の取り組み
全社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中南米における通貨下落 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価格転嫁
プリンティングソリューションズ	<p><プロフェッショナルプリンティング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中南米などの市場低迷 ・ 大判プリンター用部品の客先需要減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大判プリンター：お客様要望に応えた新商品投入と切り替え対応
下期事業利益 前回予想比 △90億円	<p><プリンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IJP 北米を中心に中・低価格帯の価格低下進行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ IJP：採算性を考慮した本体価格対応 ・ BIJ：高価格帯モデルの販売拡大

11

■ 2015年度 業績予想の前提となる下期見通しの考え方

- このように、事業を取り巻く環境が変化中、下期も引き続き、中南米における通貨下落を見込んでおり、商品価格変更による調整は進めるものの、全てはカバーできない見込み。
- その中でも、大容量インクタンクモデルは、上期に一定の価格変更を進めながらも、数量を伸ばすことができ、下期も継続して、着実な数量成長を見込んでいる。
一方、大判プリンターやプロジェクターなどは、競争環境上、価格変更が難しいことにより、慎重な見通しを立てている。
- セグメント別の下期の事業利益予想は、プリンティングソリューションズは、90億円下方修正。このうち、8割弱がプロフェッショナルプリンティング、残りがプリンター事業のインクジェットプリンターとSIDM。
- プロフェッショナルプリンティングでは、市場低迷などによる数量の減少や、大判プリンター用部品の客先需要の減少が見込まれる。
また、一部の大判プリンターで、新商品投入時期を見直し、既存商品の価格対応が必要となった。
お客様ニーズに応え、来期はアナログからデジタルへの流れを確実に捉え、成長に繋げていく。
- インクジェットプリンターは、北米を中心に中・低価格帯で価格低下が見込まれるため、将来のインク売上による採算確保に向けた販売数量の確保のために、生涯採算を考慮しながら価格対応を進める。
- 一方で、オフィス向けの高価格帯モデルは計画を上回る見込みであり、狙い通り、北米市場を中心に、モノクロレーザーからインクジェットへのシフトが進んできていると考えている。

● 下期のポイント（事業利益 対前回予想）

	事業環境の変化	事業の取り組み
ビジュアル コミュニケーション △28億円	<プロジェクター> ・景気減速による市場低迷 ・政府系予算減（教育向け）	・フルラインアップによる市場プレゼンスの拡大 ・競争力のある新商品開発
ウェアラブル・ 産業プロダクト △19億円	・景気減速による売上減少 （デバイス・海外向けウオッチ）	・ロボット 新規顧客開拓

- ・ オペレーションの強化を図り、事業利益の確実な達成
- ・ 来期以降の利益増加につながる取り組みを推進

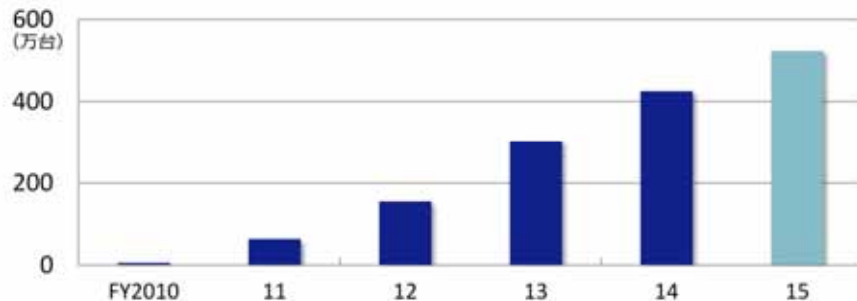
12

■ 2015年度 業績予想の前提となる下期見通しの考え方

- ビジュアルコミュニケーションは、28億円の下方修正。
プロジェクターは、下期も市場低迷が継続する見込みだが、上期に引き続き、フルラインアップにより市場シェアを拡大させるとともに、来期に向けた競争力のある新商品や新分野の研究開発を進め、中期的な成長に向けた対応に取り組む。
- ウェアラブル・産業は、19億円の下方修正。
デバイスや海外ウオッチは、景気減速により売上が減少するが、ロボットは新規顧客の開拓などにより、売上が増加する見通し。
- 以上の事業状況を踏まえ、下期は、費用および在庫のコントロールや、サプライチェーンの効率化による生産投入数のコントロールを強化し、今回の業績予想を確実に達成することを目指す。
- 一方、研究開発・設備投資・ブランド投資などの戦略的費用投下については、中長期的戦略に基づいた利益成長を実現するためには必須と考え、当初計画通りに遂行するが、執行段階においては改めて精査をしたうえで執行を実施。
- この投下により、来期以降も、競争力が高く、採算に貢献する新商品を確実に投入。
- さらに、今期計上した費用の一部は来期には無くなるものもあるため、それも含めて費用のコントロールは徹底して行い、来期以降の増益につなげていきたいと考えている。

業界におけるビジネスモデル転換に先行して対応

- ✓ 大容量インクタンクモデルの販売数量は好調に推移
(対前期20%以上伸長、期初計画に対しても増加を見込む)



- ✓ 北米で販売開始 好調なスタート



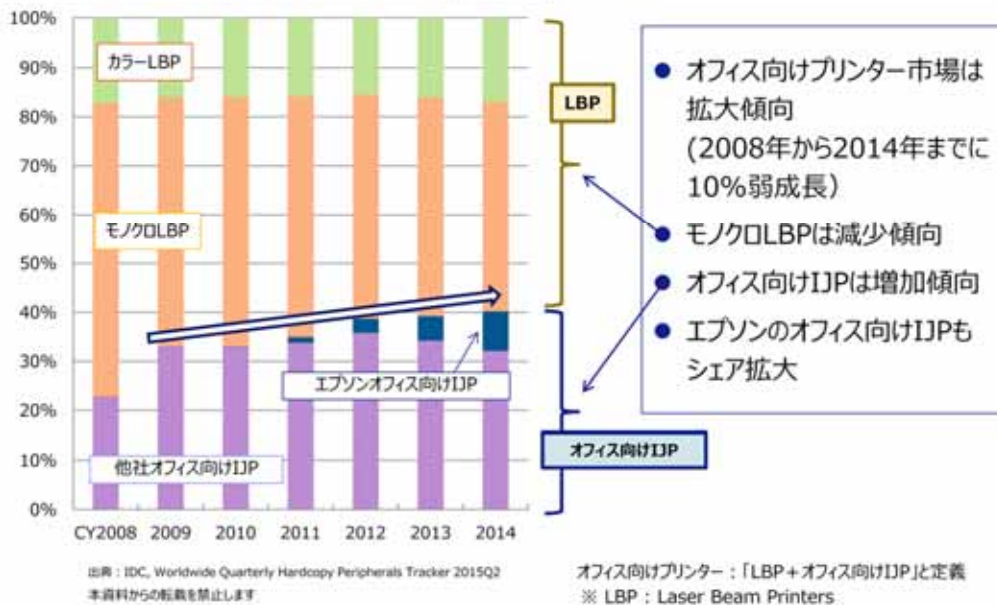
13

■ インクジェットプリンターの戦略の進捗状況

- エプソンは、プリンター業界において、独創のマイクロピエゾ技術の強みを最大限に生かし、他社に先駆けてビジネスモデルの転換を行ってきた。
- その一つが、大容量インクタンクモデル。
- 2010年度の投入以降、順調に販売数量を伸ばし、今年度も、期初計画を上回る対前期比 20%以上の数量成長を見込み、好調に推移。
- また、昨年度のに続き、北米においても、9月に大容量インクタンクモデルを「エコタンク」シリーズとして販売を開始。大量印刷を必要とするお客様に対する新しい価値提案という位置づけであり、先進国のなかで、販売数量が急激に拡大するとは考えていないが、計画に対して好調な滑り出しとなっている。

＜米国オフィス向けプリンター市場 テクノロジー別シェア＞

(数量ベース)



■ インクジェットプリンターの戦略の進捗状況

- まず、米国では、オフィス向けプリンターは拡大傾向にあり、2008年から2014年にかけて、10%弱の成長があった。
- この市場における、オフィス向けインクジェットプリンターの構成比は、2008年の約20%から、2014年には約40%になるまで拡大。一方、モノクロレーザーの構成比は、減少傾向。
- エプソンのオフィス向けインクジェットのシェアも上昇傾向。

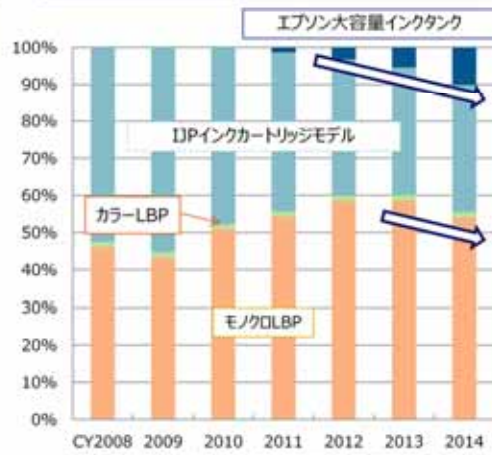
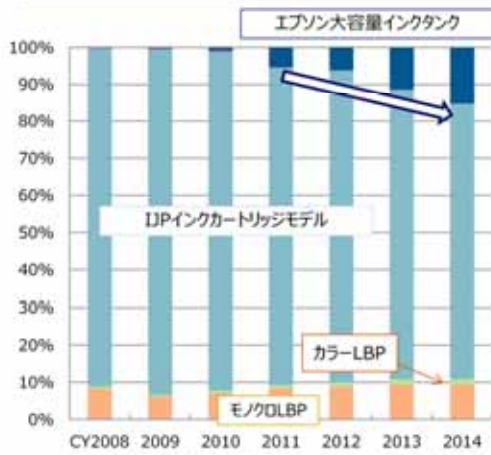
<プリンター市場 テクノロジー別シェア> (数量ベース)

<インドネシア>

- エプソンの大容量インクタンクモデルは着実にIJP市場におけるシェアを拡大

<インド>

- エプソンの大容量インクタンクモデルは着実に拡大
- 2014年 モノクロLBPは減少



出典：IDC, Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2015Q2
本資料からの転載を禁止します

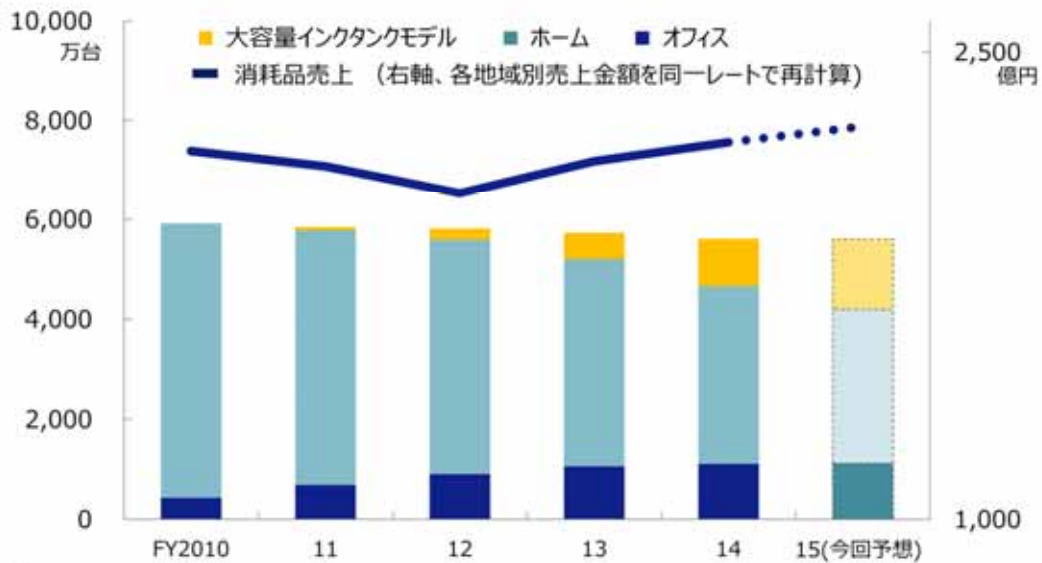
出典：IDC, Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2015Q2
本資料からの転載を禁止します

■ インクジェットプリンターの戦略の進捗状況

- 新興国のインドネシアにおけるプリンター市場は、すでにインクジェットプリンターが市場の大半を占めており、しかも、この数年間に大きな伸長が見られなかった。その中で、エプソンの大容量インクタンクモデルは、市場投入以来、毎年、着々とシェアを拡大し、プリンター市場の中で10%半ばの構成比を確保。
- また、プリンター市場が拡大傾向のインドでは、2013年までは、モノクロレーザーが中心となって市場を牽引。このような中、エプソンの大容量インクタンクモデルは、市場投入以来 着実に伸長し、その一方で、モノクロレーザーの構成比は、2014年に減少。

インク売上は戦略に基づいて堅調に推移

<IJP本体稼働台数（4年累計）とインク売上収益推移>



16

■ インクジェットプリンターの戦略の進捗状況

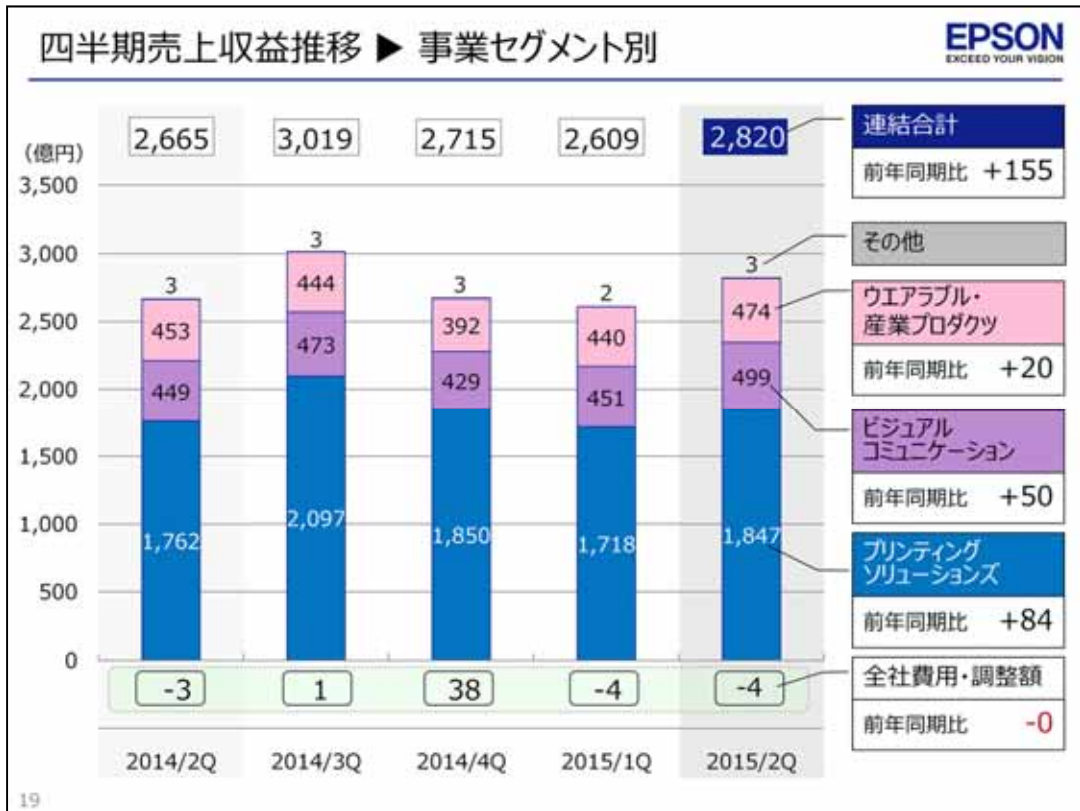
- 以上のように、大容量インクタンクモデルの数量拡大、インクジェットプリンター本体市場稼働台数の改善によるインク売上増加は順調に進み、またインクジェットプリンターによるレーザープリンターの置き換えも、徐々に動き始めていることから、エプソンのインクジェットプリンターの戦略については、着実に進展していると考えている。

1. 概要

2. 詳細

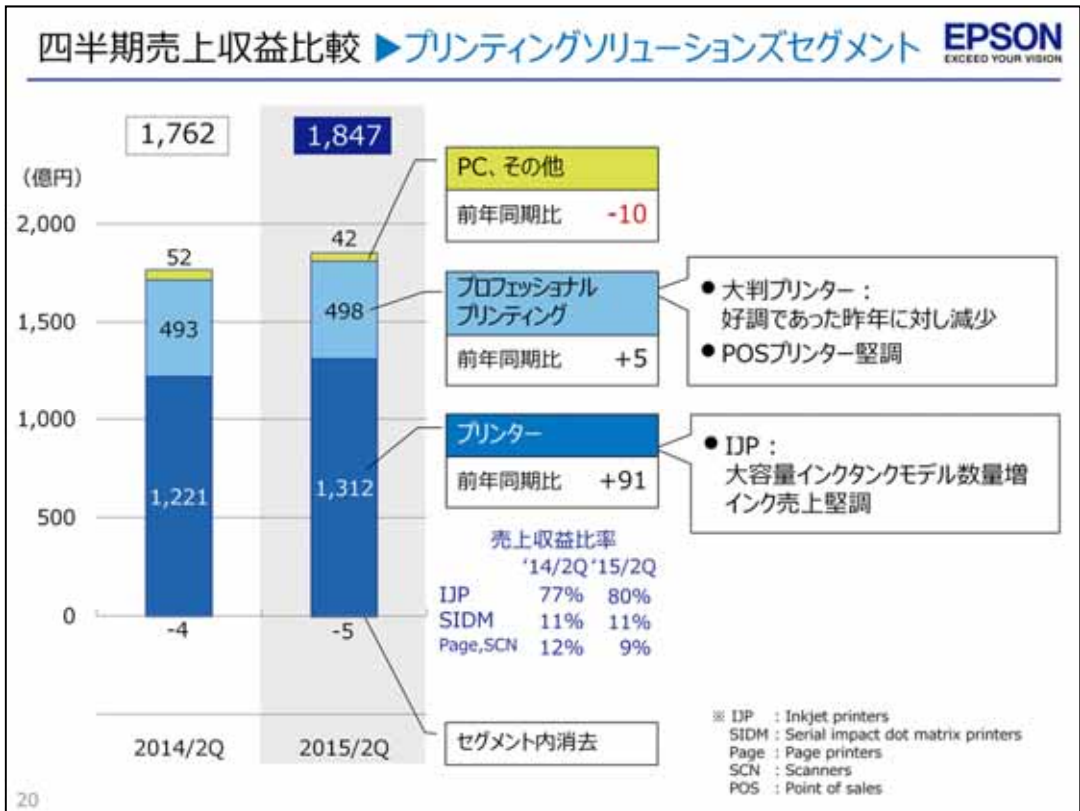
1) 2015年度 第2四半期決算

2) 2015年度 業績予想



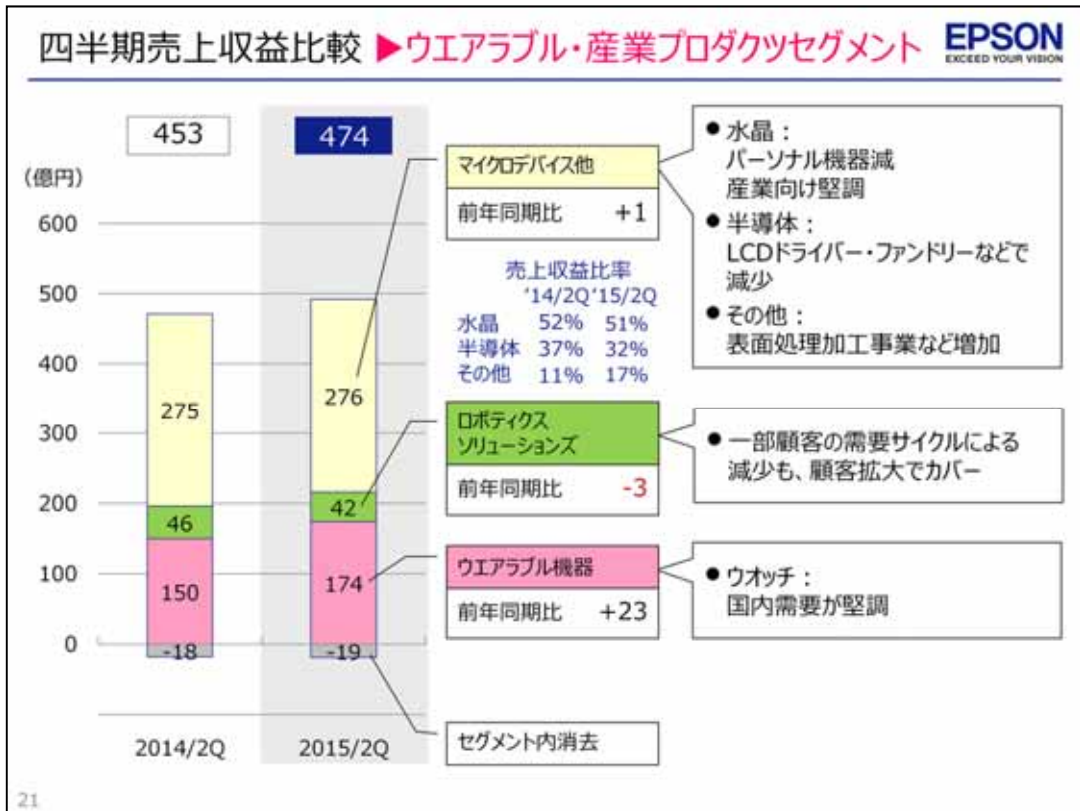
■ 事業セグメント別の 四半期 売上収益推移

- 第2四半期は前年同期に対し、
プリンティングソリューションズは、84億円の増収、
ビジュアルコミュニケーションは、50億円の増収、
ウェアラブル・産業プロダクツは、20億円の増収。
- なお、当四半期における売上収益の為替影響は、
前年同期比で 約155億円 のプラス影響。
- 前年同期と比較したセグメント別売上収益について、
プリンティングソリューションズとウェアラブル・産業プロダクツは
次ページ以降のスライドで説明するが、
ビジュアルコミュニケーションでは、プロジェクターが数量増となり、
前年同期比 50億円の増収。



■ プリンティングソリューションズ事業セグメントの第2四半期売上収益の前年同期比較

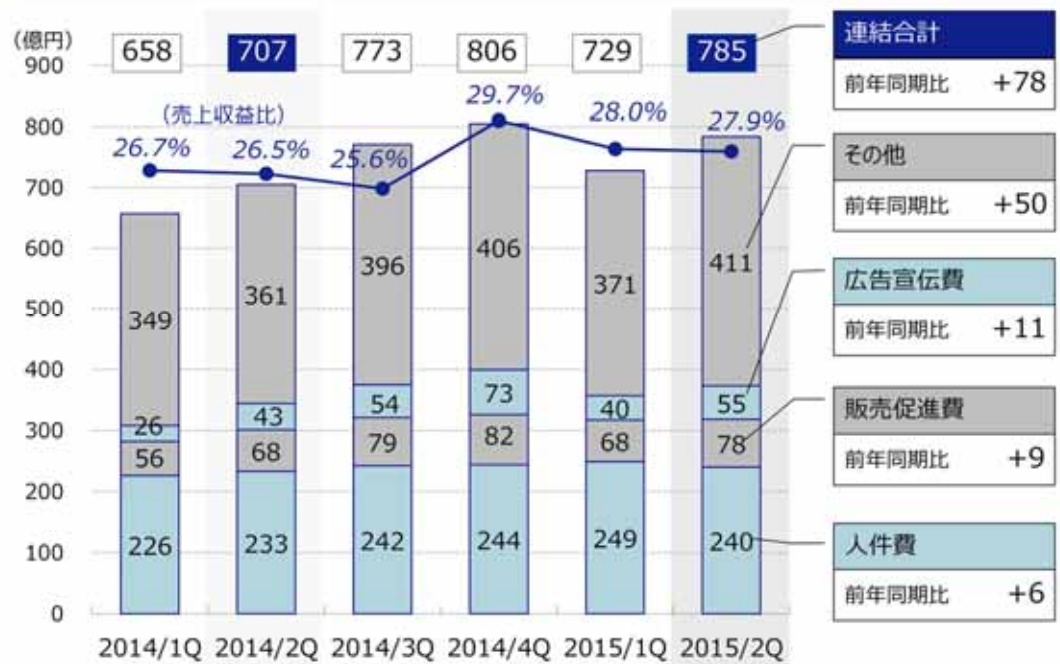
- プリンティングソリューションズは、前年同期比 84億円の増収。
- プリンター事業では、インクジェットプリンターが、引き続き、新興国を中心とした大容量インクタンクモデルや、PrecisionCoreプリントヘッドを搭載したオフィス向け高価格帯モデルが堅調に推移していることなどから、前年同期に比べて数量増。また、インクの販売は、先進国における本体の市場稼働台数の構成改善による増加が継続。
- SIDMは、中国の徴税需要システムの更新や、中国以外でも徴税システムにSIDMを導入した地域などの効果により、堅調に推移。
- プロフェッショナルプリンティングでは、北米やアジアにおいて、A3フォト用途などのインクジェットプリンターの販売が減少したことに加え、前年同期で一時的に増加した大判プリンター用部品販売の減少などがあったが、POSプリンターが堅調に推移したことに加え、為替の効果もあり、前年同期並み。



■ ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントの第2四半期売上収益の前年同期比較

- ウェアラブル・産業プロダクツは、前年同期比 20億円の増収。
- ウェアラブル機器は、国内向けウオッチが堅調に推移したことにより、前年同期を大幅に上回った。
- ロボティクスソリューションズは、前年度好調であった一部顧客の需要サイクルに伴う減少を、新規顧客の開拓などでカバーしたことから、前年同期並み。
- マイクローデバイスでは、水晶は、パーソナル機器領域において需要の減少があったものの、産業向けなどが堅調に推移したことに加え、為替の効果もあり、前年同期並み。
- 半導体は、前年度好調であった車載ディスプレイドライバーや、特定顧客のファンドリー需要が減少したことから、前年同期を下回った。その他事業では、金属粉末事業や表面処理加工事業が、第1四半期から継続して堅調に推移したことから、マイクローデバイス他の事業全体で、前年同期並み。

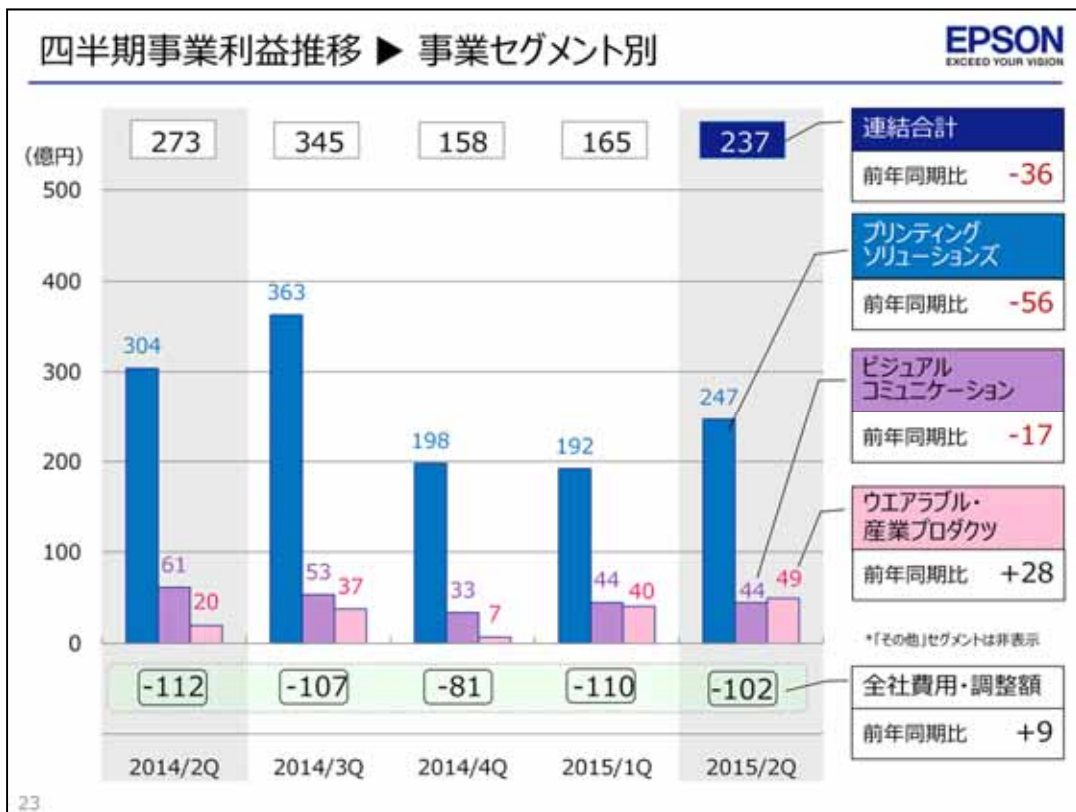
四半期販売費及び一般管理費推移



22

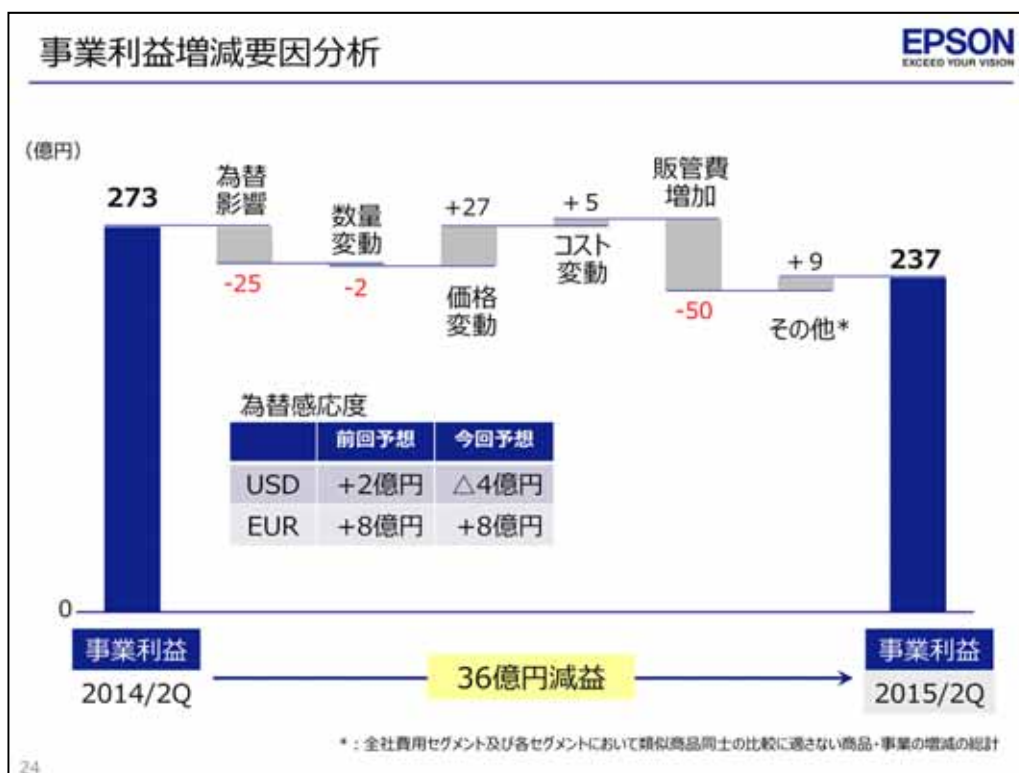
■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 第2四半期の販売費及び一般管理費は、ドル高により円換算費用が増加したことに加えブランド強化や新規領域におけるプロモーション活動などの広告宣伝費ならびに販売促進費の増加、および、研究開発費の増加などにより、前年同期に対し78億円の増加。



■ 事業セグメント別の四半期事業利益推移

- 第2四半期は、会社全体で前年同期比 36億円 の減益となる 237億円。
- 為替の影響は、前年同期比でマイナス25億円。
- プリンティングソリューションズでは、大容量インクタンクモデルやインクの増収効果の一方、大判プリンターの減収、インクカートリッジモデル本体販売価格の低下、ドル高による海外生産品の製造コスト増加、販管費の増加などにより、減益。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターの増収効果があったものの、ドル高による海外生産品の製造コスト増や、教育向け高付加価値モデルの減少などによるプロダクトミックスの変化に加え、来期以降の新商品投入に向けた研究開発費など戦略的費用の増加により、前年同期を下回った。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、増収に加え、水晶において固定費などの削減効果もあり、増益。



■ 事業利益の前年同期比の要因分解

- 為替影響は、USDドルなどが円安に推移した一方で、中南米通貨では、従来は、為替変動による影響分を基本的に商品価格に反映することで対応してきたため、USDと連動した動きを前提に為替の影響額を計算していたが、第2四半期は急激に大幅な下落が進んだため、価格への反映が追い付かず、通常の計算によって算出される為替影響のほかに、差損が発生。従って、この第2四半期の為替影響額は、中南米通貨下落を加え、合計で25億円のマイナス影響。
- このような中南米の状況を踏まえ、1円の円安による為替の感応度は、USDについて、従来の対象分から、中南米通貨分を切り分け、プラス2億円からマイナス4億円に変更。一方、EURについては従来通りプラス8億円。
- 数量変動は、大容量インクタンクモデルの他、POSプリンターやプロジェクターなどが増加した一方で、大判プリンター用部品やマイクロデバイスなどの減少で、影響を打ち消した。
- 価格変動は、インクカートリッジモデル本体、プロジェクター、マイクロデバイスの価格低下およびモデルミックスなどによるマイナス影響があった一方、通貨下落に伴う価格転嫁などのプラス影響があり、結果として27億円のプラス。
- コスト変動は、各事業でコストダウンが進展したことで、プラス。
- 販管費は、将来成長に向けたプロモーション費用や研究開発費用などが増加。

財政状態計算書主要項目推移

資産合計（総資産）



棚卸資産



25

■ 財政状態計算書の主要項目

- 資産合計は、棚卸資産の増加の一方で、現金及び現金同等物の減少などにより、前期末に比べ 273億円減少。
- 棚卸資産は、年末商戦を控えた季節要因による増加に加え、インクジェットプリンターやプロジェクターにおける販売数量の計画未達により、一時的に増加。

有利子負債・有利子負債依存度



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率
(自己資本・自己資本比率)



*有利子負債：リース負債を含む

26

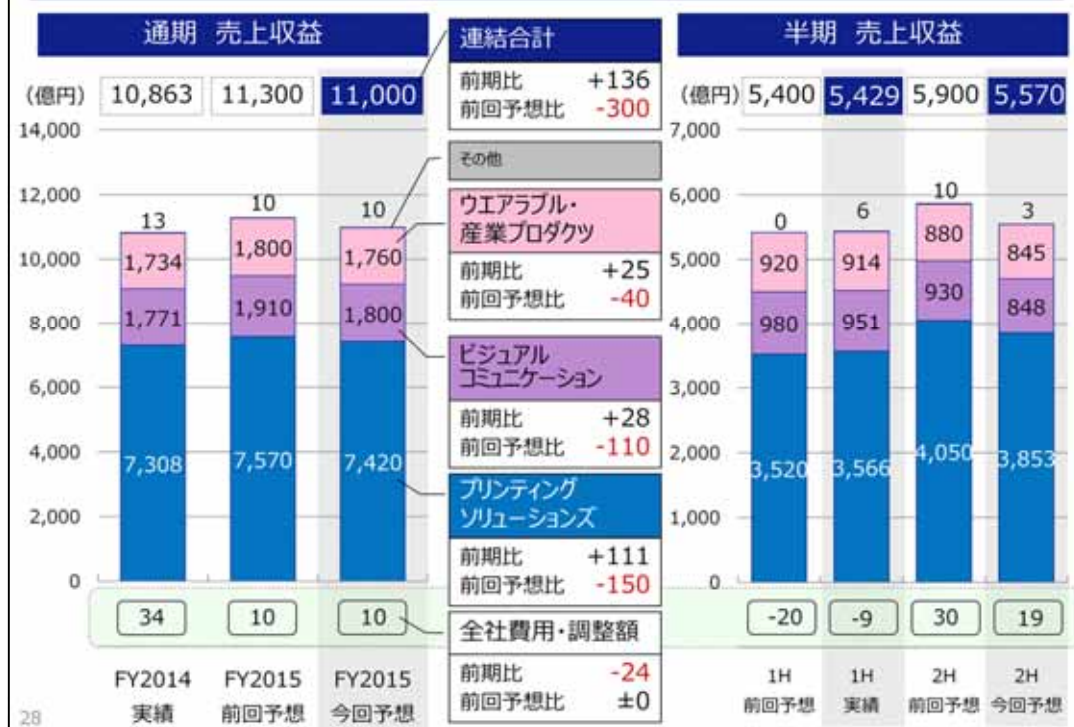
■ 財政状態計算書の主要項目

- 有利子負債は、
社債の償還などにより、前期末に比べて 276億円減少した 1,582億円となり、
資産合計の有利子負債依存度は 16.2%。
- ネットキャッシュは、323億円。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、前期末に比べて 19億円増加し、
親会社所有者帰属持分比率は 50.7%。

1) 2015年度 第2四半期決算

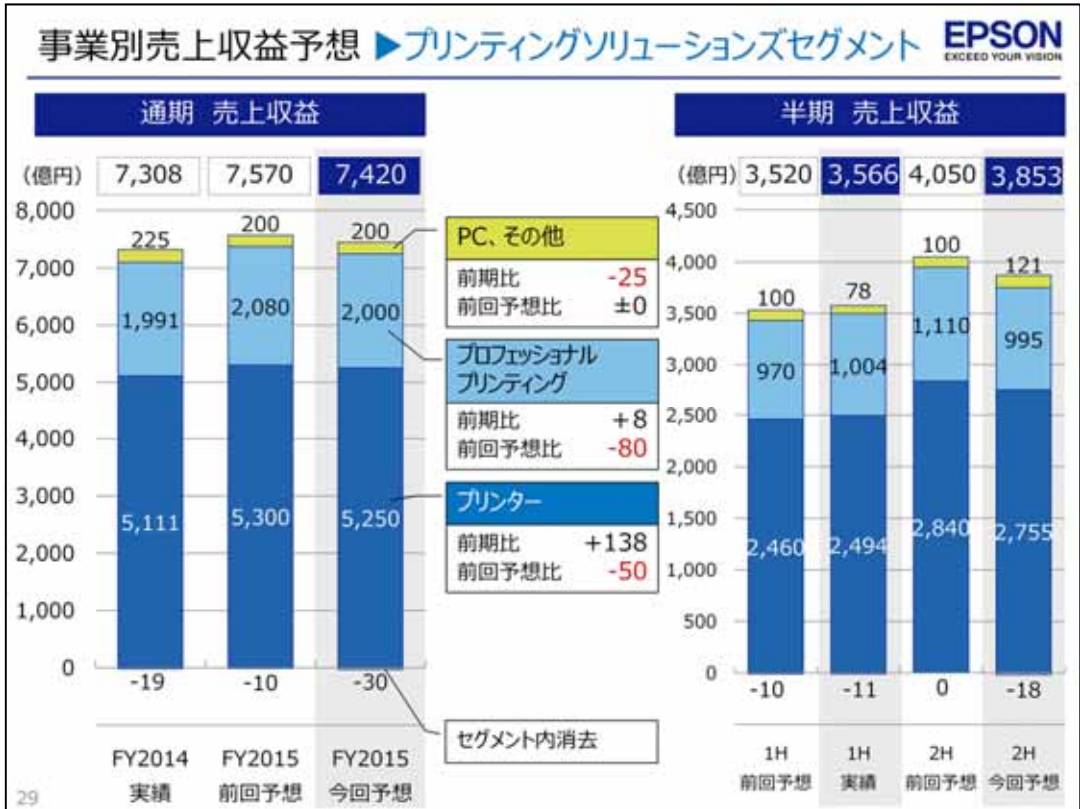
2) 2015年度 業績予想

2015年度業績予想（売上収益） ▶ 事業セグメント別



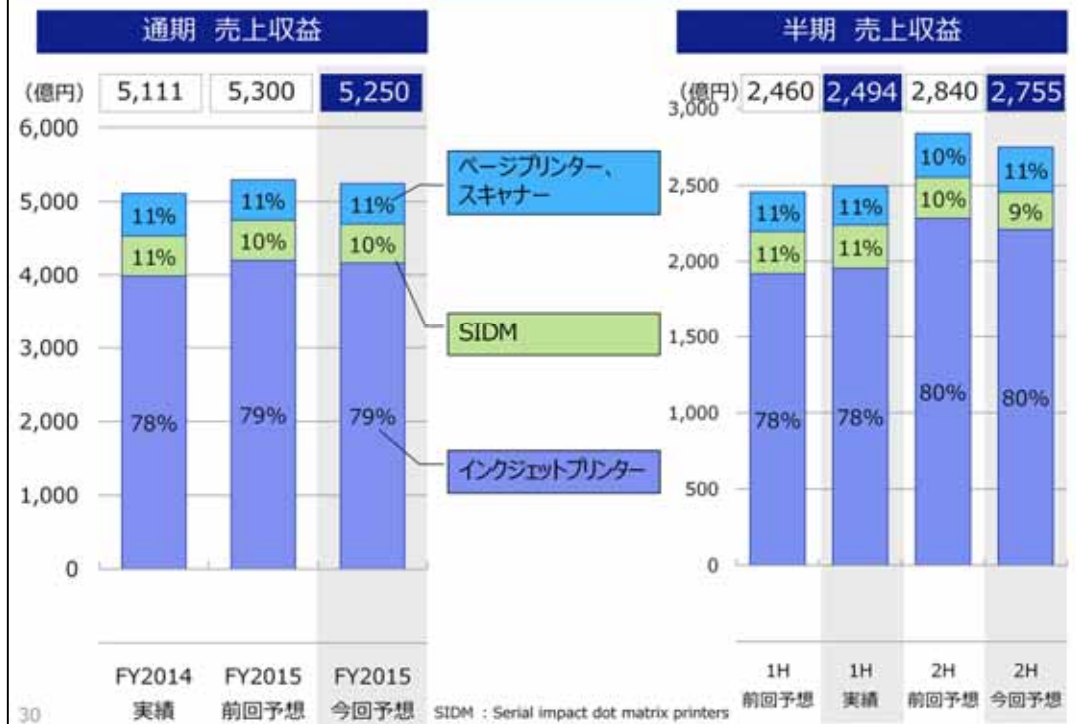
■ 2015年度の事業セグメント別売上収益予想、上期・下期別の内訳

- ビジュアルコミュニケーションにおけるプロジェクターの数量は、今年度の市場規模見通しを前期比微減に見直したことにより、エプソンの販売数量も、前回予想の前期比プラス7%から前期比プラス2%に見直す。



- プリンティングソリューションズ事業セグメントの事業別売上収益予想、上期・下期別の内訳
- プリンター事業は、通期で 5,250億円、プロフェッショナルプリンティングは、2,000億円に修正。

事業別売上収益予想 ▶ プリンター事業



■ プリンター事業の製品別売上収益予想、上期・下期別の内訳

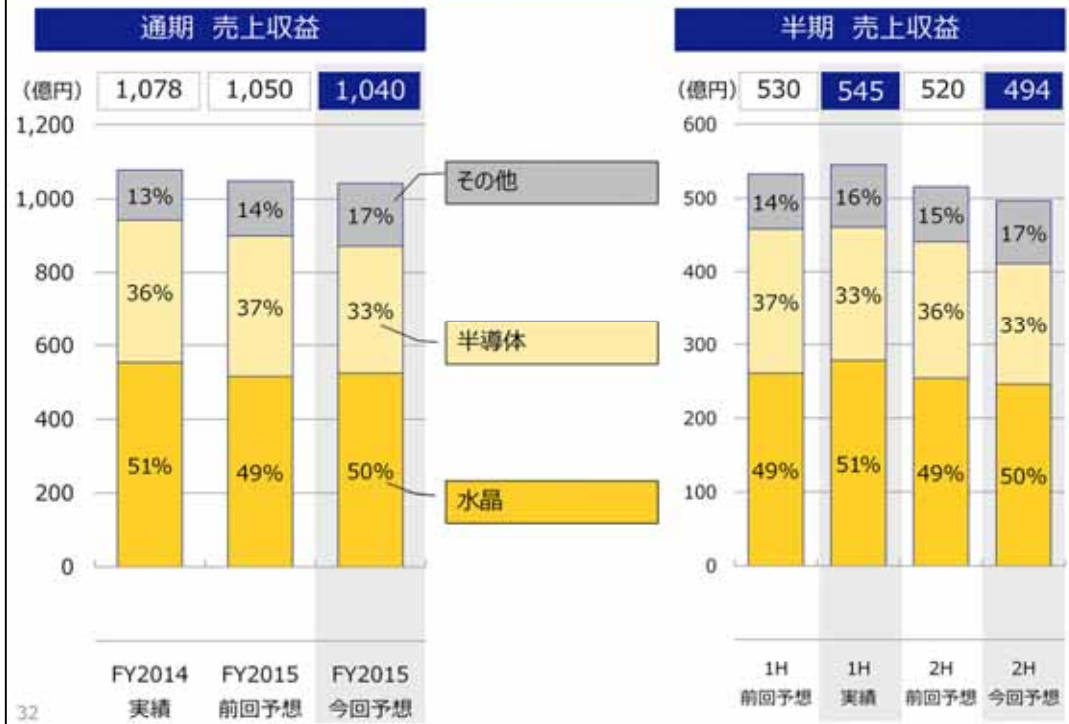
- なお、通期のインクジェットプリンター本体の販売数量は、北米において、競合他社の価格プロモーションに対し、インクも含めた生涯の採算性を考慮しながら、限定的に対応したことによる数量減もあり、前回予想の前期比プラス4%から、プラス3%に修正。

事業別売上収益予想 ▶ ウェアラブル・産業プロダクツセグメント **EPSON**
EXCEED YOUR VISION



- ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメントの事業別売上収益予想、上期・下期別の内訳

事業別売上収益予想 ▶ マイクロデバイス他事業



- マイクロデバイス他事業の製品別売上収益予想、上期・下期別の内訳

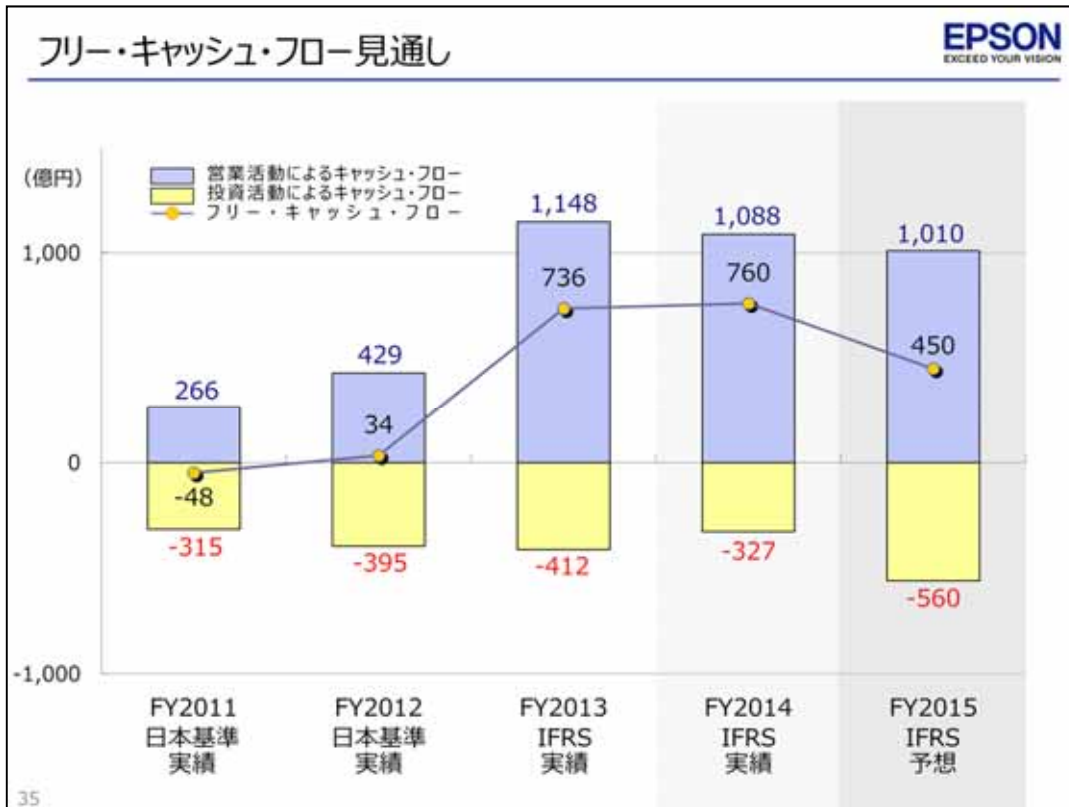


<セグメント別内訳>	FY2014 実績		FY2015 予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
プリンティングソリューションズ	221	230	390	250
ビジュアルコミュニケーション	68	72	100	80
ウェアラブル・産業プロダクツ	83	80	90	90
その他・全社費用	80	61	120	50

34

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は、前回予想を据え置き。
- 中長期的な成長をにらんだ戦略的投資を積極的に行っていくことに変更はないが、執行段階においては改めて精査を行う。
- なお、インクジェットプリンターやプロジェクターの生産能力拡大のためのフィリピン工場などへの設備投資は、前回予想までは全社費用として計上していたが、今回よりプリンティングソリューションズ、および、ビジュアルコミュニケーションへの計上に変更。
- 減価償却費は、前回予想通りの470億円。



■ キャッシュ・フロー

➤ 業績予想の修正にもとづいて見直し、

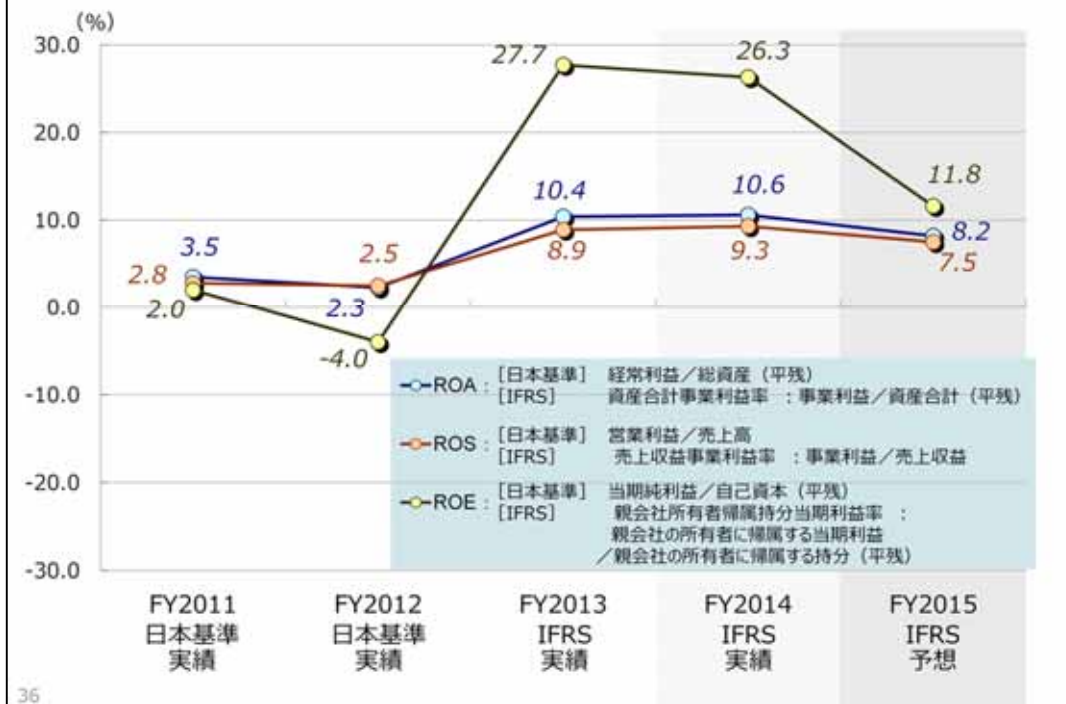
2015年度は

営業活動によるキャッシュ・フローが、1,010億円、

投資活動によるキャッシュ・フローが、560億円、

フリー・キャッシュ・フローが、450億円。

主な経営指標の推移



■ 主な経営指標

ROSが 7.5%

ROAが 8.2%

ROEが 11.8%。

EPSON
EXCEED YOUR VISION